

システム・ダイナミクス学会日本支部 2006年度 第1回会員総会

開催期日：2006年4月1日（土）

16時40分～17時15分

開催場所：学習院大学 西1号館101室

<http://www.gakushuin.ac.jp/mejiro.html>

JSD会長 **森田 道也**

議事項目

議長：森田道也

- 議題：1．2005年度決算報告：承認事項 会長
2．2005年度事業報告：報告事項 事務局長
3．2006・7年度会長選挙結果の報告 事務局長
4．新会長の挨拶と理事会役員の承認 新会長
5．2006年度事業計画・予算 新会長
6．その他 事務局長

【総会成立条件】

JSD事務局

2006年度 JSD総会提出資料に対する理事会の承認

電子理事会

- (1) 期間 3月28日～31日
- (2) 総務提出資料に対する承認連絡者
森田会長、山内副会長、末武副会長、内野理事、和泉理事、明神監事、松本理事
- (3) 承認連絡送付なし
森理事、黒野理事、三藤理事、町田理事、松本安生監事
- (4) 結論
過半数の承認により総会へ提出することが決まった。

2006年度 JSD総会決議委任状

- (1) 期間 3月28日～31日
- (2)
- (3) 出席者(24名)
池田誠、伊藤良之、内野明、宇野恵裕、大賀英史、大迫尚司、紅林倫太郎、小池昇司、河野誠二、小林秀徳、近藤史人、島田俊郎、末武透、高橋裕、竹内智、野田英志、蓮尾克彦、福良博史、松本憲洋、明神知、森田道也、山口薫、山口庸一、渡邊恵
- (4) 委任状の電子メール送信者(26名)
落合以臣、和泉潤、東誠、坂倉省吾、熊澤正光、神崎広史、横井右門、上原拓郎、今別府忍、山田善晴、鈴木信幸、山内昭、伊藤武志、渡部淳一、福田信孝、因藤信幸、土屋哲、雨宮隆、田中伸英、田中恒行、宮本善文、寺田佳正、大澤光、海老根敦子、豊島雅和、齋藤環
- (5) 結論
出席者と委任状送付者の合計が50名で、会員総数の1/3を越えていることから総会は成立した。

以上

1 . 2005 年度収支決算書

(2005 年 1 月 1 日 ~ 2006 年 3 月 20 日)

	2005年度予算額	2005年度決算額
収入の部		
前期繰越金	<u>1,519,245</u>	<u>1,519,245</u>
2005年度個人会費	650,000	505,000
2005年度学生会費		14,000
2005年度賛助会費	100,000	100,000
2006年度個人会費		180,000
2006年度学生会費		2,000
2006年度賛助会費		50,000
出版物売上	30,000	15,000
雑収入	<u>10,000</u>	<u>103,063</u>
当期収入合計	<u>790,000</u>	<u>969,063</u>
収入の部合計	<u>2,309,245</u>	<u>2,488,308</u>
支出の部		
通信費	100,000	123,700
印刷費	50,000	105,263
事務用品費	10,000	11,664
講師謝金	40,000	65,000
交通費	10,000	4,060
雑費	30,000	11,358
本部研究会補助費	70,000	35,750
地方研究会補助費	50,000	37,245
研究分科会補助費	150,000	0
アルバイト謝金	50,000	0
学会誌印刷費	400,000	404,250
前年度未処理分	6,500	6,500
事務所賃貸料	<u>24,000</u>	<u>30,000</u>
当期支払合計	<u>990,500</u>	<u>834,790</u>
次期繰り越し	<u>1,318,745</u>	<u>1,653,518</u>
現金残高		53,269
預金残高		1,600,249
未払い金		0
支出の部合計	<u>2,309,245</u>	<u>2,488,308</u>

以上の通り、2006年3月19日現在の決算額を報告します。

総会において報告できない3月20日から3月31日の収支を加えた2005年度決算報告書は、2006年4月30日までにJSDメーリングリストで報告し、総会に準じて会員の承認を求めます。

2006年3月20日 理事(総務担当) 松本憲洋

上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。

2006年3月 日 監事 松本安生

2006年3月 日 監事 明神 知

2 . 2005 年度事業報告

(2005 年 1 月 1 日 ~ 2006 年 3 月 31 日)

1 . SD 研究会 担当(3):末武・森 (4):山内・和泉

- (1) 関東地区 : 5 回を予定し、4 回開催した。
 - (2) 関東以外 : 1 回を予定し、2005 年 12 月に開催した。
- 詳細は、添付資料を参照。

2 . 学会誌の発行 担当:森田・松本

発行号数 : 5 号
発行時期 : 2006 年 3 月上旬発行した。
特集等 : 「マネジメント・プロセスの革新に向けて」

3 . 研究分科会の活動促進 担当:全役員

2005 年度に研究分科会が 3 つ以上活動していることを目指したが、1 つの研究分科会のみが活動した。活動報告については、添付資料を参照。
「ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会」(主査:森田道也 幹事:松本憲洋 19 名)

4 . フォーラム/シンポジウムの開催 担当:全役員

- (1) 2005 年度総会記念講演会
一般:2005 年 4 月 2 日 学習院大学
テーマ:「ビジネスにおける SD モデルの実用化」
担当:ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会
 - (2) 2005 年度研究発表会
一般:2006 年 1 月 14 日 学習院大学
テーマ:「マネジメント・プロセスの革新に向けて」
担当:ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会
- 詳細は添付資料を参照。

5 . System Dynamics Society などでの国際交流の促進 担当:内野

- (1) 第 23 回国際 SD 会議(The 23rd International Conference of the System Dynamics Society) は、MIT スローンスクールの SD グループが主催して、17 日から 21 日にボストンで開催された。2006 年はオランダのナイメーヘン(Nijmegen)で 7 月 23 日から 27 日の予定です。詳しくは SD 学会のサイトまで。また、2007 年は SD の誕生 50 周年を記念してボストンで開催されることが決定された。
- (2) 上海国際会議
“The Sustainable Development of Asia Pacific” をテーマにした国際会議 “Multi-Conference on the applications of System Dynamics and the Disciplines of Management” が、2005 年 11 月 4 日から 6 日に上海の Tongji University で開催された。元 JSD 支部長の島田俊郎明治大学名誉教授、亀山三郎中央大学名誉教授他、日本支部からの参加者、発表者もあった。

6 . SD の普及のための Web 公開・講習会など 担当:黒野・松本

黒野理事が HP の内容の充実に努め、SD の普及に貢献してきたが、一身上の都合で 2005 年 11 月に退任した。

7 . 運営体制 担当:松本憲洋

JSD 理事会は自らのミッションを下記と定め、JSD の運営に取り組むことになっていたが、創造的活動が十分にはなされなかった。
「JSD 理事会は、システム・ダイナミクスに関して会員に役立つ事業に取り組み、システム・ダイナミクスの普及を図ることにより、日本社会に貢献することを目指します」

3. 次期会長選挙結果の報告と新会長の就任

JSD 会長選出に関する細則 第2条4に則り、森田道也会員を2006年度～2007年度の会長として選出した。次期会長選挙結果を下記に示す。

システム・ダイナミクス学会日本支部 会長 森田道也様 理事会の皆様
2006～2007年度 会長選挙開票結果
2006年3月18日に理事会を開催し、送付された封筒を開封し、以下の結果であったことを報告します。
1. 出席 松本憲洋 委任状：森田道也、山内昭、末武透、内野明、和泉潤、明神知 以上 7名/12人 > 50%
2. 投票総数 48票/48通
3. 投票結果 森田道也氏に対する信任票 48票/投票総数48票
2006年3月18日 理事(総務担当) 松本憲洋 立会人・幹事 上原拓郎

4. 理事会役員の選任

次期会長として以下の新役員候補を選定しましたので、承認していただきますよう提案します。

- 会長 森田道也(学習院大学)
副会長 山内昭(尾道大学)
理事 松本憲洋(POSY Corp.)、和泉潤(名古屋産業大学)、内野明(専修大学)、
明神知(株式会社オーグス総研)、山口薫(同志社大学)、高橋裕(専修大学)、
蓮尾克彦(ITコーディネーター協会)、近藤史人(日本HP株式会社)、末武透
小池昇司(リコーエレクトロニクス株式会社)、海老根敦子(駿河台大学)、
大賀英史(独立行政法人国立健康・栄養研究所)、渡辺淳一(法務省)
監事 松本安生(神奈川大学)、内山章(九州電力株式会社)
幹事 上原拓郎(中央大学)
顧問 島田俊郎先生、坂倉省吾先生、亀山三郎先生、小林秀徳先生

分担業務(承認必要事項外)

- 総務担当(Executive Director)：松本憲洋
国際担当(International Society Liaison)：高橋裕
JSD研究会(本部地区)担当：高橋裕、渡辺淳一、蓮尾克彦、小池昇司
JSD研究会(地方)担当：和泉潤、山口薫、近藤史人
JSD学会誌担当：森田道也、末武透、内野明、明神知、海老根敦子、大賀英史
事務局担当：松本憲洋(事務局長)、明神知(ML管理)、蓮尾克彦(会計)、近藤史人(HP管理)、
小池昇司(名簿管理)、渡辺淳一(JSD研究会連絡)、上原拓郎(アドバイザー)

5 . 2006 年度事業計画・予算案

前議案4 . により承認された新しい理事会を4月中に招集し、2006年度事業計画案と予算案の作成を始めます。2006年5月末までに、以下の(1)と(2)に記載した項目に準じた両案を取りまとめ、メーリング・リストにより全会員に送付して、総会に準じた承認を求めます。

本日の総会では、2006年度事業計画・予算案の承認をいただくことに代えて、上記の5月末までにメーリング・リストで承認を求める方法を承認いただくよう提案します。

(1) 2006 年度事業計画案

- 1 . 学会誌の発行
- 2 . 研究分科会の活動促進
- 3 . フォーラム / シンポジウムの開催
- 4 . System Dynamics Society などでの国際交流の促進
- 5 . SD の普及のための Web 公開・講習会など
- 6 . 運営体制など

(2) 2006 年度予算案

(2006年4月1日～2007年3月31日)

	2005年度	2006年度
収入の部		
前期繰越金	1,516,383	_____
個人会費	650,000	
賛助会費	100,000	
出版物売上	30,000	
雑収入	10,000	
当期収入合計	790,000	_____
収入の部合計	2,306,383	_____
支出の部		
通信費	100,000	
印刷費	50,000	
事務用品費	10,000	
講師謝金	40,000	
交通費	10,000	
雑費	30,000	
本部研究会補助費	70,000	
地方研究会補助費	50,000	
研究分科会補助費	150,000	
アルバイト謝金	50,000	
学会誌印刷費	400,000	
前年度未処理分	6,500	
事務所賃貸料	24,000	
当期支払合計	990,500	_____
次期繰り越し	1,315,883	_____
現金残高		
預金残高		
未払い金		
支出の部合計	2,306,383	_____

6. その他

(1) 黒野宏則氏に対する感謝の提案

黒野宏則氏には 1996 年以來、JSD のホームページを開設し運営していただきました。長年の献身的活動に対して会員一同が感謝の気持ちを伝えるために、本日の JSD 総会において感謝の決議を行うことを提案します。

(2) 上原拓郎氏に対する感謝の提案

上原拓郎氏には 2000 年以來、JSD 幹事として事業推進の支援を担当していただきました。今春よりしばらく海外に居を移されることになりましたので、長年のご尽力に感謝し、会長より謝意を表します。会員の皆様にはご賛同願います。

なお、上原氏には引き続き事務局のオブザーバーとして会務に対する支援をしていただくことになっています。

(3) JSD 研究会

期日：2006 年 5 月 13 日(土) 14:00 ~ 16:00

演題： Enhancing the Learning Process by TBBSs Based on System Dynamics Model

講師： Jose A.D. Machuca Professor, University of Sevilla

(ホセ A . D . マテューカ)

分野： Operations Management, Supply Chain Management, Simulation Analysis etc

補足： 現在、森田教授との共同研究のため学習院大学に客員で来日中。

TBBSs = Tranparent Box of Business Simulators

【添付資料】

JSD研究会 開催記録

(2005年1月1日 ~ 2006年3月31日)

1. 本部区研究会

研究会名称	JSD研究会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2005/2/12 13:00-16:00	1	中村香	の茶の水女子大学大学院学生	ピータ・センゲの考え方と実践について
場所	お茶の水女子大学	2	飯島亜衣	上智大学大学院学生	科学技術とジェンダー ~ E U の女性科学技術者政策
出席者数	5名				
担当役員・幹事	森				

研究会名称	JSD研究会:SDと軍事	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2005年5月21日:13:30-16:30	1	西川吉光	東洋大学	防衛庁の教育・研究体制
場所	学習院大学	2	未武透	あずさ監査法人	SDの軍事研究への応用
出席者数	12名				
担当役員・幹事	未武				

研究会名称	JSD研究会:ISDC2005に参加し	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2005年9月10日:13:30-16:30	1	未武透	あずさ監査法人	ISDC2005の紹介
場所	学習院大学	2	内野明	専修大学	注目すべき研究発表
出席者数	14名	3	高橋裕	専修大学	ISDC2005で発表した研究の紹介
担当役員・幹事	未武	4	大賀英史	国立栄養研究所	面白かった研究発表やポストン会場

研究会名称	JSD研究会:企業の社会責任とSDの可能性	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2005年11月26日:13:30-16:30	1	坂倉省吾		CSR(企業社会責任)とBCM(企業継続管理)
場所	専修大学神田校舎	2	未武透	あずさ監査法人	CSRとシステム・ダイナミックスの適用
出席者数	20名	3	池田誠	東洋大学	ST(システム思考)/SD(システム・ダイナミックス)を使った文明の興亡の分析
担当役員・幹事	未武・内野	4	渡辺淳一	法務省	刑事政策の刑務所人口に与える影響

2. 地方区研究会

研究会名称	JSD研究会in飛鳥:SDと教育	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2005年12月3日午後～4日午前	1	池田誠 未武透	東洋大学	米国における初等・中等教育でのST/SD教育K-12の歴史・方向性と日本における効果的なST/SD習得に関する考察
場所	関西大学飛鳥文化研究所	2	山口薫	同志社大学	同志社ビジネススクールでのSD教育と研究について
出席者数	33名	3	小林秀徳	中央大学	SD教育と遣唐使
担当役員・幹事	山内・和泉	4	和泉潤	名古屋産業大学	人間の感覚とまちづくり
		5	亀山三郎	中央大学	「場」としてのSDモデルについて - 西田哲学の脱構築とSD
		6	司会:山内昭	尾道大学	総合討論「SDと教育」

研究分科会 開催記録

(2005年1月1日～2006年3月31日)

研究分科会名称 ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会

主査 森田道也(学習院大学)

幹事 松本憲洋(POSY Corp.)

メンバー 伊藤武志、伊藤良之、内山章、内野明、榎本哲也、落合以臣、紅林倫太郎、小池昇司、河野誠二、近藤史人、田中恒行、蓮尾克彦、松本憲洋、水内啓介、明神知、森田道也、山口庸一、山田善靖、渡辺恵

活動報告 研究分科会の基本方針は、参加メンバーがそれぞれの仕事に適用できて効果あるテーマを取り上げて、結果の有効性を確認することである。その経過と結果はSDの普及にもつながると考える。
昨2004年度は、「サプライチェーンの分析」を共通テーマとして、各自の所属する業界について研究し、2005年度総会記念講演会で4つのテーマについて報告した。
今年度は、SDを自分の業務に適用して、その効果を評価することを目的に、8つのテーマを掲げて各自で研究し、その内の7つのテーマについて2006年1月14日の研究発表会で報告した。

期日・時刻	5月25日 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学				各自の研究テーマの説明
出席者数	7人				

期日・時刻	6月29日 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	渡邊恵	三木産業	商社のサプライ品供給プロセスのモデル化
出席者数	6人	2	蓮尾克彦	I TC	ソフトウェア・プロセス・ダイナミクスとEVMに関して

期日・時刻	7月27日 18:30-20:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	明神知	オージス総研	SI事業のSDモデル
出席者数	7人	2	田中恒行	経団連	支払い能力システム
		3	紅林倫太郎	NEC	競争のダイナミクスモデルの北米通信業界への適用

期日・時刻	9月21日 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	松本憲洋 金森 滋 森田道也	POSY 東大 学習院大	東京Y空港の軍民共用による経済波及効果
出席者数	10人	2			各自の研究経過報告

期日・時刻	10月26日 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	蓮尾克彦	I TC	誰がSDを利用してくれるか?
出席者数	5人	2			各自の研究経過報告

期日・時刻	12月1日 19:00-21:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学				2006年1月14日開催予定のJSD研究発表会の発表論文について現状の説明と開催準備の打合せ
出席者数	9人				

2005年度 JSD総会記念講演会

テーマ	“ビジネスにおけるSDモデルの実用化”
開催日	2005年4月2日(土)13時～16時10分
開催場所	学習院大学西1号館 301教室
主催	システム・ダイナミクス学会日本支部
担当	ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会
後援	ITコーディネータ協会
参加者	86人

【基調講演】

森田道也 (学習院大学) 「SDの実用化に向けて」

【講演】

紅林倫太郎 (日本電気株式会社) 「デマンド・プル型製造業を通じた経営シミュレーションツールの構築」

明神 知 (株式会社 オージス総研) 「SI事業におけるモデリングとシミュレーション」
- SDとUMLによるアナリシスとシンセシス -

蓮尾克彦 (ITコーディネータ協会) 「SDによるBSCの解法」

松本憲洋 (POSY Corp.) 「ビジネス・プロセス・モデルで活かせるBSC戦略経営」

2005年度 研究発表会

テーマ	“マネジメント・プロセスの革新に向けて”
開催日	2006年1月14日(土)13時～17時15分
開催場所	学習院大学 南3号館104号室
主催	システム・ダイナミクス学会日本支部(JSD)
後援	ITコーディネータ協会(1ポイント/4時間)
担当	JSD ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会
参加費	1000円 (JSD会員は無料)
参加者	120人

【基調講演】

森田道也(学習院大学 経済学部) 「マネジメント・プロセスの焦点:学習力とシステム」

【講演】

小池昇司(リコーエレメックス株式会社 環境事業部) 「販売プロセスにおけるプライス・コントロール・マネジメント」

蓮尾克彦(特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会) 「CMMレベル4以下のEVM」

松本憲洋(POSY Corp.) 「BSC戦略経営にTOCを組込む」

田中恒行(社団法人 日本経済団体 連合会 労働政策本部) 「人件費管理を中心にした経営計画へのアプローチ」

朝倉俊明、志賀真保子(株式会社 富士通総研 イノベーション推進室) 「SOX法対応を戦略的競争優位に結びつける経営管理」

末武 透 「ビジネス・プロセスにおける内部統制の重要性」

近藤史人(日本ヒューレット・パッカート 株式会社) 「状況適応システムのモデリング: BSCを超えて」

【参考】

システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

第1条 (名称)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものをいう。

第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

第5条 (会費)

本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

会長 (President)	1名
副会長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Executive Director)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。
選挙細則は別途定める。
- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。

第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年総会時および会長がその必要を認めるとき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本会の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 会長が必要と認めるときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。

第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

第11条 (顧問)

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員を選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員の2分の1以上とする。

第14条 (会計年度)

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

第15条 (事務局)

- 1 本会の事務局を下記に置く。
〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12-104 藤和半蔵門コープ1F POSY Corp. 内
システム・ダイナミクス学会日本支部事務局
Tel & Fax 03-3512-5358
- 2 事務局は理事 (総務担当) と幹事で構成し、理事 (総務担当) が事務局長を務める。

付 則 1 第10条の規定にかかわらず、支部発足時の役員任期は1991年12月31日までとする。

- 2 本内規は1990年9月22日より発効する。
- 3 1991年7月22日一部改正
- 4 1992年2月17日一部改正
- 5 1995年3月13日一部改正
- 6 1996年3月29日一部改正
- 7 2003年2月12日一部改正
- 8 2004年1月31日一部改正
- 9 2005年4月2日一部改正
- 10 第14条の規定にかかわらず、2005年度会計年度は、2005年1月1日から2006年3月31日までとする。

システム・ダイナミクス学会日本支部 会長選出に関する細則

- 第1条 この細則は「システム・ダイナミクス学会日本支部規約」第8条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第2条 会長の選出は次の各項による。
- 1 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末45日以前に、14日間の期間を設定して求める。
 - 2 5名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。
推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、(代表推薦人マーク)
被推薦人：氏名、住所、所属、職位/資格、e-mail、電話、専門、略歴、
JSD会長としての目標・抱負(400字以内)
 - 3 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の14日以前に7日間の期間を設定して実施する。
 - 4 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第1位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
 - 5 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

研究分科会の設立と運営に関する内規

1. 研究分科会が発足するまでのプロセス
提案者：研究分科会の設立提案をサロン・メールで発信
全会員：サロン・メールによる意見交換とメンバー募集
提案者：研究分科会の設立提案書を事務局までメールで送付
会長による承認
研究分科会活動開始
2. 諸規定
 - (1) 設立条件
5名以上の会員をメンバーとして、代表者が提案し、その目的がJSDの活動主旨に沿い、JSDの研究・普及活動を活発化させる可能性が認められるとき、会長は研究分科会の設立を承認する。
 - (2) 参加資格
研究分科会の活動に貢献するJSD会員は、いかなる研究分科会にも参加できる。
 - (3) 研究分科会の組織と運営
分科会には主査と幹事を置き、事務局が設定した分科会専用のMLの管理も自主的に行う。
 - (4) 研究分科会の権利と義務
分科会メンバーの変更があった場合には、速やかに事務局に届け出る。
研究報告を研究会で発表するよう担当理事に求められた場合には指示に従う。
少なくとも年1回以上はJSD研究会等で発表する。
会議場、コピー代など研究分科会開催に必要な経費は、領収書とともに事務局に申請すれば支払を受けることができる。ただし、各研究分科会の上限は別に定める。
3. 研究分科会の設立申請様式
メンバーリストを入力したExcelファイルと下記の申請内容を事務局メール宛に送付して申請する。
事務局：jsd-office@yahoogroups.jp

分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日：
申請者：
名称：研究内容が推測できる研究分科会の名前
共同申請者：添付するExcelファイルに5名以上のJSD会員名を記載
趣旨：研究分科会を立ち上げる背景と狙い、参加メンバー利得、期待できる成果、等について具体的に記載
研究内容：研究対象、研究構成、研究内容、研究計画、等について具体的に記載
研究体制：研究組織、研究実施方法、打ち合わせ頻度・形式、作業分担方法、等についてできるだけ具体的に記載

メンバーリストのExcelファイルには、代表世話人を含めて下記情報を記載。
名前、e-mailアドレス、所属機関名

編集委員会細則

- 第1条 (目的)
当日本支部規約第2条に定める事業を行うために、編集委員会を設ける。
編集委員会は、当日本支部で発行する学会誌の発行に関する諸事項の決定およびそれらの処理事項を実施する。
- 第2条 (委員会の構成)
編集委員会の構成は次の通りとする。
編集委員長 1名
編集副委員長 1名
編集委員 若干名
- 2 編集委員長と編集副委員長は当日本支部の会長が理事会メンバーの中から任命する。
- 3 編集委員は編集委員長が当日本支部の会員の中から委嘱する。
- 第3条 (委員の任期)
編集委員長、副委員長、委員の任期は2年間とする。
- 第4条 (委員会の業務)
委員長は編集委員会を招集し、次の事項を審議し処理する。
学会誌の投稿規定の策定と論文募集
学会誌研究論文の査読適格者の委嘱と投稿論文ごとの選任
学会誌の編集に関わる業務
学会誌の発行・送付に関わる業務
- 第5条 (委員会の報告)
委員長は編集委員会の審議内容、業務遂行内容を理事会に適宜報告する。
- 付則 2005年12月24日から発行する。

学会誌研究論文査読規定

1. 審査の目的
投稿された研究論文が当日本支部の学会誌に掲載するにふさわしいか否かを審査基準に基づき判断する。
2. 審査基準
投稿された研究論文は、以下の項目に照らして査読者が総合的に審査する。
分野 : システム・ダイナミクスに関連した内容であること。
論理性 : 論旨の展開が明快で、記述が簡潔・明瞭であること。
新規性 : 内容に新たな知見が盛り込まれていること。
信頼性 : 結論等を信頼するに値する客観的な考察が示されていること。
有用性 : 得られた結論・経過が学術領域あるいは実社会において有用であること。
3. 査読者
編集委員会が指名する2名の査読者が審査基準に基づき審査にあたる。査読期間は編集委員会から送付されて2ヶ月以内とする。査読適格者の氏名は公開するが、個々の投稿論文も対する査読者の氏名は公開しない。査読者と投稿者との直接の接触は許容されず、必ず編集委員会を介する。
4. 判定
査読者の審査結果に基づき研究論文は以下のいずれかに判定される。査読者の意見が割れた場合には編集委員長がこれを決する。
そのまま掲載
指摘事項を修正したことを編集委員長が確認して掲載
再度査読者の審査が必要
掲載不可

と判定された研究論文の投稿者には掲載条件が指示される。投稿者が指示に従い修正したことを編集委員長が確認すれば掲載に分類される。投稿者に異論がある場合には、論拠を編集委員長に文書をもって提出し、編集委員会で審議の結果、提出文書が適切であると判断されたなら掲載に分類される。修正が十分でなく、また異論根拠が文書で提出されない場合には掲載不可に分類される。
と判定された研究論文は、修正後に査読者により出版までの時間が許容する範囲内で審査する。時間切れの場合には、掲載不可に分類される。

メーリング・リストの使用手順

1. メーリング・リストの概要

メーリング・リストは Yahoo!グループのシステムを使用しています。現在、大きく分けて五種類のメーリング・リストを会員向けに運用しています。

メーリング・リストの種類

グループ	説明
jsd_from_office @yahoogleroups.jp	事務局からの連絡用ML。日本支部主催の催し物、総会の案内等、公式の案内を配信するためのMLです。配信者は原則として事務局です。
jsd-office @yahoogleroups.jp	事務局への連絡用ML。事務局へメールを送りたい場合は、このアドレスへ送信してください。
jsd-research-meeting @yahoogleroups.jp	JSD研究会の開催通知の送付用ML。配信者は担当理事で、全会員に向けて送信されます。
jsd_salon @yahoogleroups.jp	ディスカッション用ML。会員が全会員に向けて発信するためのMLです。会員の方であれば自由に配信することが出来ます。
jsdr_*** @yahoogleroups.jp	分科会ML。分科会ごとのMLです。分科会内での議論、連絡等に使用します。

2. メールの送り方

メールは上の表の各アドレスを宛名としてメッセージを送信すれば、各メーリング・リストに登録されているメンバーへ一度にメッセージを送ることが出来ます。

例えば、JSD_salon@yahoogleroups.jp には全ての会員が登録されていますので、この宛先を指定すると、全会員へメッセージが送信されます。

セキュリティの関係で、メールには原則としてファイルを添付できません。添付ファイルはメール本文に含めるか、またはこの後に説明するウェブ・ページ内のブリーフ・ケースにアップ・ロードして、その旨を本文に記載し、読者がそのウェブ・ページを参照する形をとってください。

3. ウェブ・ページの利用

Yahoo!グループでは、各メーリング・リスト毎に専用のウェブ・ページが用意されています。そのページ上で過去のメッセージを確認したり、ブリーフ・ケースを利用したりすることが出来ます。

(1) アクセスの準備

ウェブ・ページの利用には Yahoo! Japan ID の取得が必要となりますので、お持ちでない方は登録をお願いいたします。登録画面へは、下記の Yahoo! グループのトップ・ページから入れます。

<http://groups.yahoo.co.jp>

(2) アクセス

Yahoo! グループを利用するには、上記のページを

開いてください。各メーリング・リストに対応するウェブ・ページのURLは、上記のURLの後ろに、/group/をつけ、

その後に、各メーリング・リストのアドレスをつけます。例えば、左の表の最上段に記載した事務局からの連絡用メーリング・リストの場合には、専用ウェブ・ページのURLは次のようになります。

http://groups.yahoo.co.jp/group/jsd_from_office/

(3) ログイン

専用ウェブ・ページのURLを直接入力するか、または、Yahoo!グループのページから下記の流れに沿って対応するページに入ります。

Yahoo! グループのページを開くと、右側に下図のような Yahoo! JAPAN ID とパスワード(*)を入力する場所がありますので、それぞれを入力し、ログインボタンを押してください。



ログインした画面の右側に、自分が所属している Yahoo! グループの名前の一覧である "Myグループ" が表示されますので、開きたいページをクリックします。

ウェブ・ページの構成の主なものは、トップ・ページであるメイン・ページとブリーフ・ケースです。ブリーフ・ケースでは、テキスト形式以外のデータもアップ・ロードして保管でき、ユーザーが自由にそのコンテンツをダウンロードできます。一方のメイン・ページでは過去のメールを確認できます。

(4) ブリーフ・ケース

事務局からの連絡用の(2)で例示したブリーフ・ケースには、JSD会員名簿、JSD総会資料、テキスト・データ以外のデータなどがアップ・ロードされ保管されています。

このようなアップ・ロードされているブリーフ・ケースのファイルを利用するには、まず利用したいファイルがアップ・ロードされているグループを選択します。

選択したグループのページに移ると下図のようなコンテンツのメニューが表示されますので、ブリーフ・ケースへのリンク行をクリックしてください。

